

(国語)

**「言語力を高める国語科学習指導のあり方」
～読みを広げ深める子どもの育成をめざして～**

大阪市立茨田小学校 藤岡道代

1. 研究主題設定の理由

本校では、「自ら学び、ともに考え、最後までやりぬく子を育てる」を教育目標として、教育活動を進めている。

本校の児童は素直で明るく活発な児童が多いが、言葉の力が足りないことで友だちとトラブルになったり、進んで自分の思いを発表することに消極的であったりするところが見られる。そこで、4年前より国語科を中心に「言語力の育成」に取り組んできた。1年目は～自分の思いや考えを伝えるための指導法～、2年目は～自分の思いや考えを伝え合う指導法～を副題に聞く、話す、伝え合うことを中心に取り組んできた。そして、昨年度は、基礎・基本が確実に定着するように「言語力を高める国語科学習指導のあり方～読みを広げ深める子どもの育成をめざして～」を研究主題とし、「読む力の育成」に重点を置いて、さらに研究を進めた。

読むことの中でも説明的な文章を取り上げ、単元の構成や学校全体で学年の系統性をそろえた研究を考えてきた。一定の成果がみられたが、いくつかの課題も残ったため、本年度も引き続き説明的な文章に限定し、研究を進めていくようにした。

2. 研究の趣旨

研究を進めるに当たり、本校の教育目標「めざす子ども像」から、国語科における研究目標として、次の3点をあげた。

- | | |
|-----------|------------------------|
| ○まなぶ子 | 基礎学力を定着させる。 |
| ○思いやりのある子 | 互いの立場や考えを尊重し、言葉で伝え合える。 |
| ○たくましい子 | 自分の思いや考えを進んで表現する。 |

児童にとって主体的、対話的で深い学びとなるように研究を深めた。外部講師を招いての研修や校内においてのミニ研修会、指導案検討会の前の教材研究会など、教師自身の資質向上に向けての研修を行い授業研究に取り組んだ。

3. 研究の概要

視点① 単元構成、学習過程の工夫

- 児童が主体的な学習をするために、多様な課題を準備し、問題解決学習の定着をはかることが大切であると考えた。本時の学習が次時の問題解決につながり、その積み重ねによって、単元全体の問題解決ができるように学習過程を設定する。
- 指導者が児童に身につけたい言語の力を明確にし、目的をもって学習できるように単元の構成を工夫する。そして、第Ⅲ次につけたい言語の力にふさわしい言語活動を設定し、言語活動に生かせるような学習活動を第Ⅰ次、第Ⅱ次で展開していく。第Ⅲ次につなげる並行読書の取り組みなども考える。
- すべての時間に必ず「読む」「書く」「話す」活動を入れ、そのバランスを考える。
- ICT、デジタル教科書を活用し、視覚的に児童に理解しやすいように工夫する。

視点② 交流の仕方の工夫

- 自分の考えをもって話し合いに臨み、話し合いによって自分の考えが深まるような交流活動を考える。
- 話し合いの形態・ペアトーク工夫（その目的に応じた形態）
- 話し合い活動における補助発問や助言の工夫（指導者の支援の在り方）

視点③ 基礎基本の力の向上

- 系統立てた指導を考える。
 - ・ 6年間で身につけたい読みの言葉の力・学習用語を作成
- 読書活動の充実を図る。
 - ・ 朝に読書タイム、読書貯金通帳の活用、表彰の機会、図書ボランティアの方の協力
読書環境の充実
- 教室環境を整える。
 - ・ 声のものさし、学習用語の短冊などの掲示
- 漢字の定着を図る。
 - ・ 漢字タイムの設定、年度初めと学期末（年3回）に定着度を調べ、分析

4. 研究の成果と今後の課題

（1）研究の成果

- 説明文を「はじめ」「なか」「おわり」の大きな部屋でできた「説明文の家」ととらえて読んだ。その結果、児童は段落相互の関係をとらえやすく、説明文全体の構成を意識しながら読むことができた。
- ICTを取り入れ、調べたことを端末のアプリでまとめた。また、デジタル教科書の動画を学習の後で見ることで、読み取った内容を確認した。ICTを利用して視覚的に分かりやすい授業を組み立てることができた。
- 相手を変えて多くの友だちとペア交流する場を取り入れた。2人でノートを共有して見たり交換して読んだりした。また、友だちの考えを取り入れて、書き加える姿も見られた。互いの考えを聞き合おうという意識が育ってきた。児童は、自分の考えに自信がもてるようになり、考えを広げたり深めたりすることができた。
- 学習用語の系統表をもとに、それぞれの学年に必要な学習用語を常時掲示して学習時に活用することができた。
- 目的に合った適切な言葉を探し、丸で囲んだり線を引いたりすることで、教材文を根拠に自分の考えをもてるようになった。
- 毎週の漢字タイムの継続により、漢字の定着が見られ、読みの向上につながった。
- 授業や討議の内容まとめた研究通信を研究授業後に出すことで、学びの跡を振り返り、次の研究に生かすことができた。

（2）今後の課題

- 音読の声の大きさや文字を書く速さ、発表の積極性など個人差が見られる。個に応じた支援を丁寧にしていく。また、語彙力を増やす工夫を考えていく。
- ペア交流では、目的に応じた交流の仕方を工夫していく。また、児童が相手に同意したり質問したりする力をもっとつけていく必要がある。さらに、他の教科にも積極的に取り入れていく。